

2018年6月6日

エチオピア・アジスアベバ市での障害児用中古車椅子供与プロジェクト報告

秋子孝男 記

当会のエチオピア福祉団体チェシャ包括事業財団（正式名；Cheshire Foundation Action for Inclusion）との共同活動の歴史は長く、2011年バハルダール市90台、2013年ジマ市90台、2016年デシェ市160台への供与を行なってきた。肢体不自由児のより健康な生活に効果をあげ、保護者と共に、より質の高い生活を実現してきている。自作の移動用三輪車など自らの製作活動も定着してきているが、子ども用車椅子の活用はまだまだ足りていない。

本年度はアジスアベバ市において90台、バハルダール市向け90台の180台を供与するが、5月22日に行われたアジスアベバ市における引渡式に参加するとともに、チェシャ包括事業団本部を訪問し、彼らの活動全般を理解する機会を得た。

A. 引渡式の様子



引渡式はアジスアベバ市政府の Labor & Social Affairs Breau (労政局)の中庭並び公舎にて行われた。Ephrem Gizaw 局長の参加の下、チェシャエチオピア財団の理事長 Dr.Gobena Kebedem も高齡をおして出席していただいた。



90台の贈呈にあたり代表して約15名の子ども達が式に参加してくれた。アジスアベバ市といっても実体は人口700万に届いているであろうとされており、2時間をかけて参加してくれた家族もいた。

①



① 事前にチェシャ財団倉庫を訪れ体型に合う椅子を選ぶ機会を設けたとのことであった。このフィッティングは限られた台数では難しい場面があることが現実である。クッションなどの自作は産業としては有るものの、資金、セラピスト専門家不足で実現していない。

②



② Gizaws 局長の謝辞ならび参加家族へのメッセージ。事前に当会の日本での活動を紹介するプレゼンを見ていただき今後とも継続する活動への期待を述べていた。

③



③ チェシャ財団バハルダールで自作した移動用手動三輪車。障害児の移動性を高めるのに人気が高いとのこと。

④ お世話になったチェシャ財団 Kedir Mohanmed 氏（左側）と Teye Kimfu 氏。

Kedir さんはキリスト教信者が多い中でイスラム教徒とのこと。断食月真っ最中だった。

⑤ 日本からのアニメ付き文房具を子ども達が喜んでくれた。

④



⑤



B. チェシャ財団本部訪問

引渡式に先立ち、本部を訪問するとともに、アジスアベバ市で実施しているプロジェクト現場を訪れる機会を得た。

⑤



⑥



⑥



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑤～⑩

アジスアベバ市内のチェシャ包括事業財団の本部施設。到着した車椅子は会議室兼倉庫スペースにしっかり保管され、少しずつ対象者への配布が進んでいた。

敷地内には近隣の子ども達が利用する図書館、学習室が開設されていた。実際の蔵書のほかアメリカ大使館の協力でオフラインPCに約5万冊の学習資料が備えられているとのこと。ここでも当会ステッカー付き車椅子を発見！！。全国共通期末試験が近いとかで真剣に勉強する子ども達がいた。

⑪～⑫

公立小中学校の衛生Toiletの追加敷設をカナダのNGO協力で展開しているとのこと。水洗ではないが使用後の手洗い水場を完備していることが画期的とのことだった。大型水タンクがあるが、水が足りず手洗い場は使えていなかった。

⑬～⑯

ほぼ薬代だけの負担で利用できるクリニック。チェシャ包括事業財団の発祥の地で運営されていた。妊婦さんの健康指導、検査が大半とのこと。HIV感染率が最近再び上昇していることが心配としていた。

このプロジェクトは平成29年度外務省NGO連携無償資金協力を受け実施しました

以上